

世界でどのくらい量の果物が生産されているのだろうか。FAO（国連食糧農業機関）が発表している最新の2013年のデータによれば、6億7667万トとなって

いる。世界の人口は現在人々に一日一個のリンゴが行き渡る程度の生産量ののだろうか。FAO（国連食糧農業機関）が発表している最新の2013年のデータによれば、6億7667万トとなっている。世界の人口は現在

# 5万トン時代へ

## 青森リンゴ輸出

21

73億人を超えているので、1人当たりの年間供給量は約90キととなる。分かりやすいようにリンゴに換算してみると、中程度サイズのリンゴ360個分ということになるので、計算上は世界の

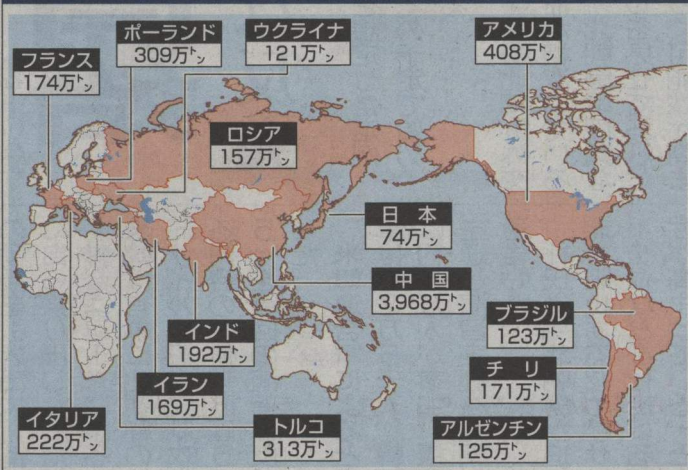
トップはバナナで1億671万ト、リンゴは堂々の2位で8082万ト、次いでブドウ7718万ト、オレンジ7145万ト、マンゴー類4330万トと続いている。リンゴは、果物全体の

# 中国が独走 本県の100倍

中で12%のシェアを占めている。年々生産量が拡大して、2008年にブドウを追い越して3

## 世界のリンゴ生産量

2013年 世界主要国のリンゴ生産量



FAO (国連食糧農業機関)のデータを基に作成

位に、そして09年にオレンジを抜いて2位にまで躍進している。リンゴ生産増の原動力は主に中国の生産拡大に負うところが大きい。

リンゴ産地は、世界5大陸にまたがって分散しており、ブドウに次いで産地が多い。ブドウはワイン産地が多いため、生食用果実ではリンゴの産地が最も多いと思われる。

地域別では、アジアでの生産が最も多く3分の2を占めるが、中国だけで世界生産の半分となる約4千万トを生産してい

る。日本の生産量が74万ト、青森県が41万トだから、中国の生産量が青森県の100倍と、とてつもなく大きく見える。

アジアに次いで生産が多いのがヨーロッパ、次いで北米と南米、アフリカとなる。生産国では、中国に次ぐのがアメリカ、トルコ、ポーランド、イタリアの順となっている。日本向けの輸出が時々話題となるニュージーランドは、44万トと青森県と同程度だ。生産量の多い国は、それだけ国内需要が多いので、輸出のターゲットを絞る時のヒントになるのではないか。

(県りんご輸出協会事務局長 深澤守)